

# 校長室から

第15号

## 二宮金次郎の像について ~その7~

せっかくですので、渡邊錠太郎について少しだけ書きます。「1874年（明治7年）愛知県に生まれる。家庭が貧しかったため、小学校を4年で中退し陸軍に入営、独学で中学の課程を済ませ陸軍士官学校を受験、師団内トップの成績で入学、更に陸軍大学校に入学、1903年（明治36年）主席で卒業。第七師団長の後、要職を歴任し1935年（昭和10年）陸軍教育総監に就任、1936（昭和11年）年2月26日二・二六事件で、東京都の自宅で殺害される」渡邊は、リベラル派の教養人で、給料の大半を丸善書店の支払いに充てていました。「軍隊は強くていいが、戦争だけはしてはいけない」という自由主義的な発想や意見は、そもそも人文社会科学的な教養に乏しい過激青年将校の憎悪を招いたといわれています。旭川市生まれで学校法人ノートルダム清心学園理事長の、二女渡辺和子氏（事件当時9歳）は父の死を目の前で見ており、自宅にいた2人の憲兵は父を守らなかったと証言しています。なお、氏の著書『置かれた場所で咲きなさい』（2012年、幻冬舎）は140万部を超えるベストセラーです。

寄り道途中の寄り道から戻ります。西興部神社で世紀の大発見をした筆者は、急ぎ本校に帰ると、金次郎像の台座正面の「忠孝」の左下の縦書きの判読できなかった「陸軍中将〇〇〇〇〇」の部分に雪をこすりつけてみました。こちらは凸字ではありますが、「陸軍中将石田保秀書」とははっきりと読むことができました。石田保秀（いしだもりひで）は昭和14年9月12日～15年10月4日の間、第七師団の留守師団長（師団が外地に出征しているときに内地に留守師団を置く）を務めています。ここから一気に進んでいきます。

台座の正面左側には凸字縦書きで「紀元二千六百年」と書かれています。

台座正面の裏側には凸字縦書きで4行「建設寄贈者」、「齋藤健二郎」、「長男忠一北海道帝国大学卒業記念」、「並ニ亡妻いとノ追善供養ノ為建之」とあります。

当時のことを本校の沿革史で調べてみると、いずれも縦書きで

- 「一、昭和十五年五月十五日 二千六百年記念事業トシテ中藻村有林ヘトド松二千六百本  
ヲ植林ス
- 一、昭和十五年十月二十一日 新校舎上棟式挙行ス
- 一、昭和十六年四月三十日 新校舎落成ス
- 一、昭和十六年一月一日 齋藤健次郎氏二宮尊徳銅像ヲ寄附サル建設費一千円  
（本文の右下に小さく「除幕式をもって記入」と書いてある）
- 一、昭和十六年六月十五日 新校舎落成式ヲ挙行ス
- 一、昭和十六年四月一日 瀬戸牛国民学校ト改稱ス
- 一、昭和十六年十二月六日 奉安殿落成式挙行」

の記述があります。紀元2600年記念事業、二宮金次郎銅像寄附、新校舎落成式、国民学校令の施行、奉安殿（教育勅語と御真影（天皇と皇后の写真）を納めておくための建造物）落成式、様々な事業が目白押しで、当時の高揚感が伝わってきます。

そして、昭和16年12月8日、日本海軍の真珠湾攻撃で太平洋戦争に突入します。